

看護学臨床実習の代替プログラムとして実施したハイフレックス型授業

関西国際大学 保健医療学部 看護学科

松原まなみ

国立情報学研究所 4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム

2020.10.9

ハイフレックス型授業とは？

ハイフレックス型授業のタイプ

ハイブリッド型授業ー3つのタイプ

多くの看護学実習はブレンド型で実施

ハイフレックス型 (Hybrid-Flexible)

- 同じ内容の授業を、対面とオンラインで同時に行う授業方法
 - 学生が自由に選択
 - どちらでも「同じ質の授業」
 - 同時に両方を考慮 (高難易度)

参考: Hybrid-Flexible Course Design (B.J. Beatty)
<https://edtechbooks.org/hyflex> など



ブレンド型 (Blended)

- 対面とオンラインを、教育効果を考えて組み合わせる授業方法
 - 「反転授業」は、この一形態
 - 工夫すればフルオンラインにも適用可



分散型

- 同じ回異なる内容の授業を対面とオンラインで行い、学生は分散して受講する授業方法
 - 主に人数制限のための対応
 - 複数回実施等による負荷増



真奈准教授 (高等教育研究開発推進センター) による整理

9月11日 サイバーシンポジウム
京都大学情報環境機構 教授
中村 素典先生講演資料 より

看護学の臨床(臨地) 実習

一人の患者さんを受け持ち、看護が必要な問題や課題を見出し、必要なケアを提供する



患者さんとの関わり (観察、相互作用による発見、関係性の構築)

 課題・問題の発見

 ケアを実施

 自己評価、他者評価



× 臨床現場の臨場感、 × 看護体験を実感する、

× 相互作用による学び × 感動

 学習への **motivation** ↓

学内の実習代替プログラム（対面/遠隔併用）で 臨床実習の到達目標達成を保証👉授業方略の再編成

<母性看護学実習における目的・目標> (実習要項より抜粋) ←

知識、技術、態度面における行動目標について、以下、C(cognitive;知識)、P(psychomotor;技術)、A(affective;態度)として示す。←

			学内実習での学習方法←
目的←	←	周産期にある母と子およびその家族の特性を理解し、よりウェルネスな健康状態の維持・増進のために必要な看護の知識・技術・態度を習得し、母性看護を实践できる基礎的能力を養う。←	←
行動目標←	1) 妊産婦と新生児の身体的・心理的特徴を理解する。←	P-1 受け持ち対象者の観察方法や留意点について説明できる。← P-2 受け持ち対象者の理解に必要な情報を収集できる。← C-1 得られた情報をウェルネスの視点でアセスメントできる。← C-2 受け持ち対象者の妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の経過を説明することができる。←	DVD事例による看護過程の展開← 臨地実習：実際の事例を受け持ち、学生が立案した看護計画に従って意図的な看護を実施し、評価する← ↓← 学内：紙上展開←
←	2) 妊産婦と新生児に対する、健康の維持・増進のための看護を理解する。←	C-1 受け持ち対象者と新生児の看護の方向性を明確にすることができる。← C-2 受け持ち対象者と新生児にふさわしい看護目標をあげることができる。← C-3 受け持ち対象者と新生児に必要な援助方法を立案することができる。← C-4 受け持ち対象者と新生児に立案した援助を実施し、評価・修正することができる。← C-5 妊産婦とその家族に行われている健康教育の重要性を説明することができる。← C-6 母性看護における看護師（助産師）の役割を説明することができる。← P-1 受け持ち対象者へ安全・安楽に援助することができる。←	DVD事例による看護過程の展開← 臨地実習：実際の事例を受け持ち、学生が立案した看護計画に従って意図的な看護を実施し、評価する← ↓← 学内：紙上展開←
←	3) 母子の愛着形成の促進および家族機能の構築のための援助について理解する。←	P-1 受け持ち対象者と家族の妊娠・出産に対する思いを聴くことができる。← C-1 受け持ち対象者の子どもへの関わり方を観察し、母親の心理状態や母子関係を説明することができる。← C-2 母子の愛着形成の促進や家族関係の再構築に向けての援助を説明することができる。←	DVD事例による看護過程の展開← 臨地実習：実際の事例を受け持ち、学生が立案した看護計画に従って意図的な看護を実施し、評価する← ↓← 学内：紙上展開&ロールプレイ←
←	4) 将来の看護専門職者としての態度を習得する。←	A-1 自己の学習計画を立て、主体的に学習することができる。← A-2 受け持ち対象者を尊重する態度がとれる。← A-3 受け持ち対象者と相互理解を深め、援助関係を築くことができる。← A-4 母性領域の特性をふまえて個人情報保護しつつ看護が実施できる。← A-5 看護学生としての役割と責任を認識し、報告・連絡・相談ができる。← A-6 実習体験を振り返り、自己の課題をあげることができる。←	<A-3,A-4,A-5の到達度>← ・学内での学生は、 <u>ロール・プレイの実践</u> で評価する。← ↓← ・実習（2日間）に行く学生は、 <u>臨地実習</u> で評価する←

授業方略の再編成

看護に対する興味・関心を失わず、学習のmotivationを維持し、看護学実習における学習目標の達成を保証するには？

〔技術的課題〕

- ・ ロールプレイ（看護学生－患者のやり取り）を臨場感を失わず、在宅学生へ提供
 - ・ 場面全体を撮影
 - ・ 手元の細かい動作も撮影
 - ・ 音声を確実に拾う
- ・ 遠隔との併用によって対面学生の学習効果の低減を避ける



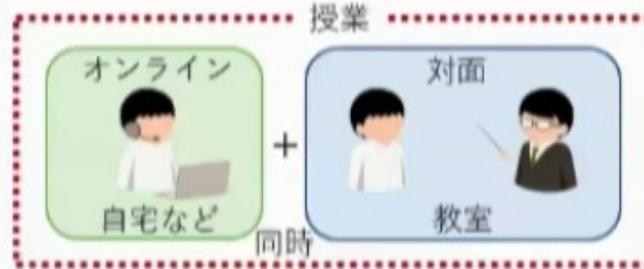
4月20日からの遠隔授業開始に向けた 大学内の遠隔授業支援研修・相談会

⇒ハンディカメラとPC接続  ビデオ・キャプチャー?? など

技術的提案 > 品薄で購入困難

教室・機器の準備

ハイフレックス型の前提条件



- 教室での対面 + 自習室からリモート参加 or 自宅からリモート参加
 - 教室ではできるだけ間隔をあけて座る
(⇒ 1つのマイクの近くに集まることが困難)
 - 感染防止のため、ハンドマイクの手渡しを避ける
 - 授業直前の準備（接続作業など）に時間がかからない
- 以上の条件を満たしつつ、できるだけ良好な音質を実現

《課題》
動きのあるロールプレイの映像と音声をどのように収録するか！！

教室の学生配置と換気対策

notePC内蔵カメラ⇒広角レンズのWEBカメラ

notePC内蔵マイクの限界

↓
集音マイクの使用

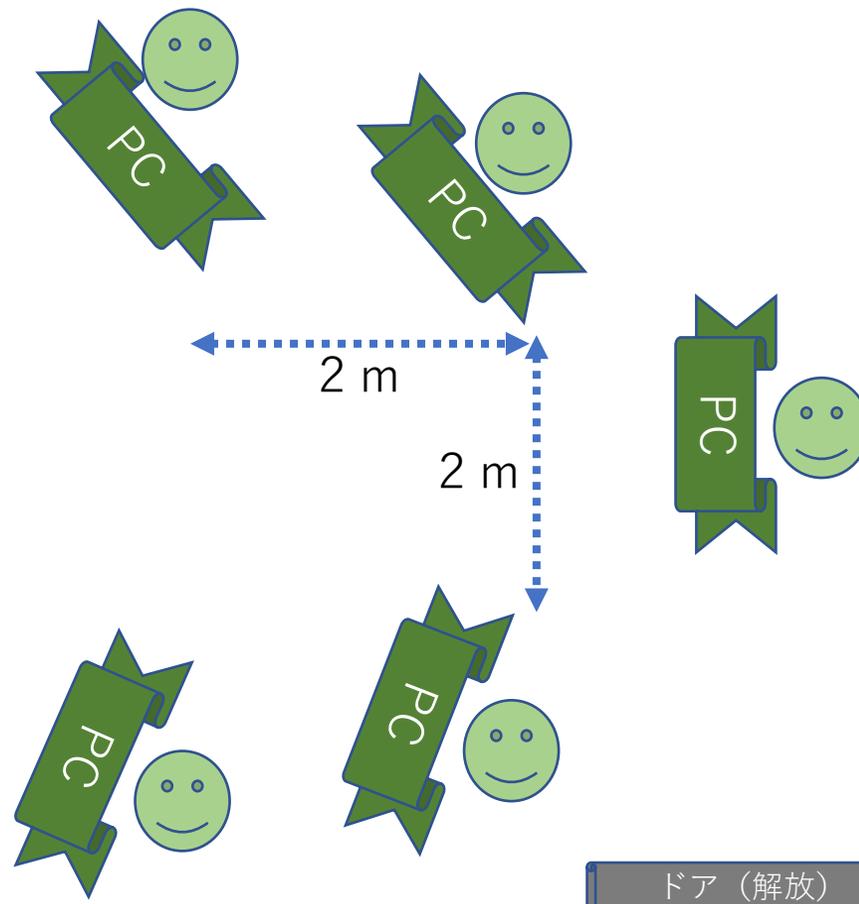
教室（実習室）環境 と 機器の配置

在宅学生
5-10名

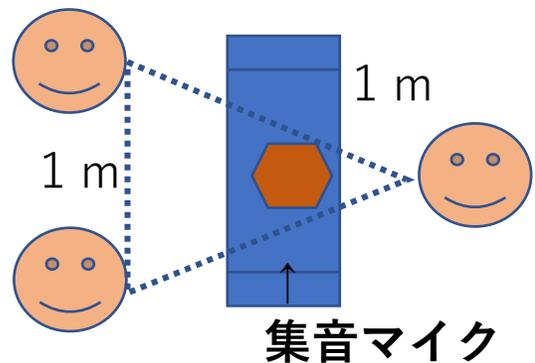


対面授業
5-10名

(個々の学生はnotePC使用)



<ロールプレイ>
面接指導



notePC+広角カメラ

ホワイトボード

教員

窓

窓 (解放)

窓

窓 (解放)

窓

窓 (解放)

窓

窓 (解放)

作業台

沐浴槽

ドア (解放)

ドア (解放)

新型コロナ 病院での看護実習生受け入れ制限

対面、遠隔で代替実習

関西国際大 「3密」避け実効性

の関西国際大では、対面授業とビデオ通話による遠隔授業を併用。3密を回避しつつ、学習目標の達成を目指している。
(大橋凜太郎)

新型コロナウイルス感染症の影響で病院による看護実習生の受け入れが困難になる中、看護系大学が学内での代替実習に取り組んでいる。三木市志染町青山1

感染症の拡大で、多くの病院が医師派遣や実習生の受け入れを制限。実習時間の短縮や中止が長期化する。ことも想定し、厚生労働省は学内の実習で代替可能とする通達を出した。同大は6月から学内実習を、7月には一部で医療現場での「臨地実習」を始めたが、受け入れ人数と場所は限られる。

例年5〜12月まで急性期や慢性期、小児など幅広い領域の実習に取り組む3年生は、約120人を1組5人程度のグループに分け、対面と遠隔を駆使。母性看護学実習では、一度に部屋に入る学生を少人数に絞り、産科入院中の母親らを支援する実習にも取り組んだ。

30日の実習では、産後2週間健診の相談室を想定した役割演技を実施。夫婦役の学生に対し、看護師役の産後2週間健診の相談室を想定した実習―関西国際大



学生はまず、個別面談で不安や悩みを聞いた。続く家族面談では、夫婦仲が険悪になる一幕もあったが、双方の立場に理解を示した上で仲裁に入った。演技後は、ビデオ通話で参加した学生も発言し、振り返った。看護学科3年の合田康太郎さん(21)は「学内では、実習後のフィードバックの時間が豊富。いろんな人の考えを聞くことが、大きな学びになる」と前向きだ。松原まなみ教授(61)は「ハナダイはあるが、これまで教育改革の好機と想っている」と話した。

【代替実習の授業デザイン】

1. 教材

初めての子育てする夫婦の産科入院中～産後1か月の生活をドラマ化したDVD

2. 学習課題

- 1) 支援が必要な課題とその根拠を査定
- 2) 支援計画を立案
- 3) Role Play(役割演技)
退院指導 (産後4日)
産後2週間健診
- 4) 実施した支援の評価
(在宅学生とdiscussion)

⇒クラウド保存の映像視聴

3. 学習形態

グループワーク

【学生の感想】

沐浴指導



教室（実習室）環境 と 機器の配置

窓

窓（解放）

窓

窓（解放）

窓

窓（解放）

窓

窓（解放）

作業台

天井ミラー

notePC+広角カメラ

沐浴槽

1 m

1 m

<ロールプレイ>

沐浴指導

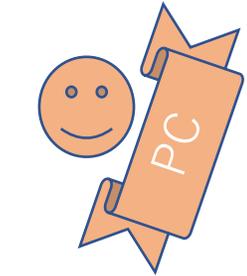
集音マイク

対面授業

5 - 10名

(個々の学生はnotePC使用)

在宅学生
5-10名



ホワイトボード



教員

ドア（解放）

ドア（解放）

まとめ

1. ハイフレックス型授業では、同時に対面・遠隔学生の双方に配慮しながら、同じ質の授業を保証しなければならない

9月11日 サイバーシンポジウム 中村 素典 京都大学情報環境機構 教授先生講演資料 より

ハイフレックス型授業 には、物（映像機器）と人的資源（授業サポーター） が重要な要素



※機器の選択、臨機応変な調整（撮影角度、カメラの位置）が重要

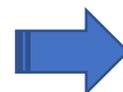
- ・物 notePC内蔵カメラ⇒広角WEBカメラ、スピーカーマイク（集音マイク）の使用
- ・人（TAの補助）⇒授業者の意識の分散↓ ⇒授業が格段に楽になり、学生の反応も高まった

2. 人も物も限界のある中で、工夫してやっていく

9月11日 サイバーシンポジウム より

※コロナの状況下では教室のキャパ・構造、電源、WiFi環境等、様々な要素からなる

『連立方程式』を解かねばならない



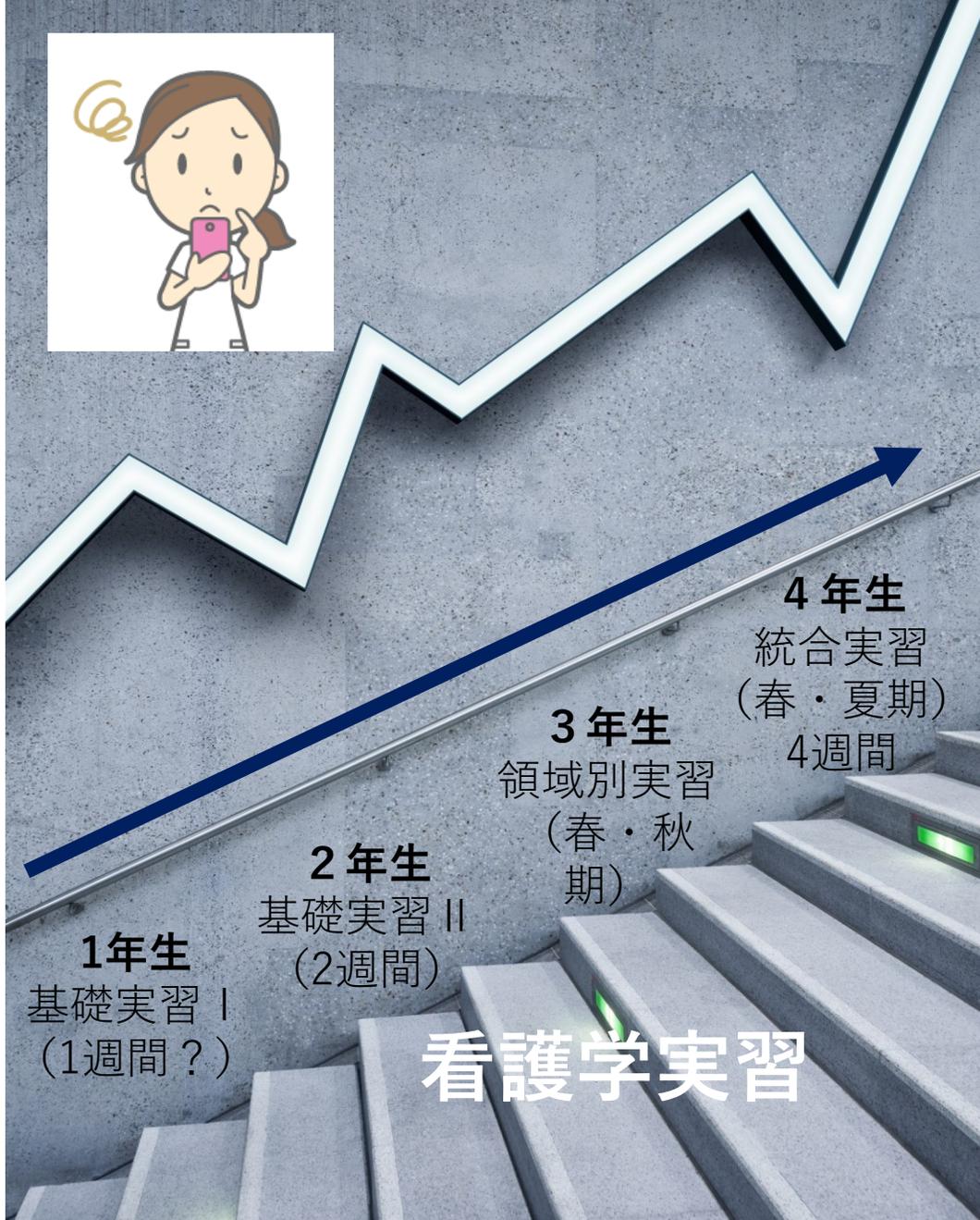
遠隔授業の教材は映像と音声

⇒映像・音声の調整が鍵

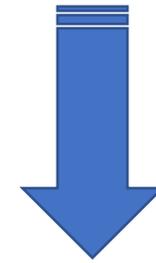
3. 授業デザインの工夫

※対象学生の背景（モチベーション）、授業の場（環境）

教材の選択と提示方法 ➡興味を持てる教材と授業展開



コロナ禍で、
”学びの犠牲者を出さない”



”motivationを
維持・向上できる授業展開を
創意・工夫！！

